

本書の使い方

本書は、①PMBOK®ガイドの副読本としての利用、②独立した書籍として学習の2通りの使い方ができます。

1. PMBOK®ガイドの副読本として利用する場合
 - PMBOK®ガイドの学習を進める。
 - 学習の過程で不明な個所があれば、本書の目次、索引、章とプロセスの相関関係マップなどを参照して、当該プロセスを読む。

2. 本書を独立した書籍として学習する場合
 - 本書の目次、本文（本書をより良く理解するため）、章とプロセスの相関関係マップに目を通し、本書の構成を理解する。
 - 本書の「プロジェクトマネジメント・プロセス群と知識エリアの分類（図1-2）によるプロセス群と知識エリアの関係を理解する。
 - 第1章と第2章を理解する。
 - 本書のプロセス群に含まれるプロセス構成とコンテンツを理解する。
 - PMBOK®ガイドを読む。

本書は多くの章に分かれているので、本書を独立した書籍として学習される読者は、自分が読んでいる個所の所在を見失うこともあるでしょう。そのため、まずは本書の全体像を理解してください。さらに、巻末の「章とプロセスの相関関係マップ」にて当該箇所的位置付を確認しながら学習を進めることをお勧めします。

最後になりますが、著者が序文にて記述しているように、PMBOK®ガイドはあくまでも知識体系であり、プロジェクトマネジメントに関わる重要な知識を取り扱っているものです。知識だけをもって実務に適用としても活用できないのは言うまでもありません。プロジェクトマネジメントを実践する方法論があって初めて実務に結び付きます。

プロジェクトマネジメントの方法論について興味のある方は、日本テンステップのウェブサイト（URL: <http://tenstep.jp/>）にある「テンステップのPMプロセス」をご参照してください。ご参考になれば幸いです。